

立ち読み版

連載 インタビュー

Umano! #4



株式会社リバネス代表取締役 CEO

丸 幸弘さん

1978年神奈川県生まれ。東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程修了。博士(農学)。2002年に理工系大学生・大学院生のみで株式会社リバネスを設立。研究者の知を集めるインフラ「知識プラットフォーム」を通じて、数多くのプロジェクトを進行中。ミドリムシ(学名:ユーグレナ)を活用して食品や化粧品などを製造・販売する株式会社ユーグレナの立ち上げ当初から技術顧問を務めるほか、30社以上のベンチャーに携わる。リアルテックファンド(経済産業省、NEDO認定ファンド)共同代表。

課題を解決すれば お金は後からついてくる

— 新時代を担うベンチャー創業者が語る
イノベーションを生み出すサイクル

【取材・文】 荒井 由紀子 早稲田大学大学院理工学研究科修士課程修了後、エーザイ株式会社に入社。新薬の臨床開発に携わる。産休・育休取得の後、職場復帰を経て退職し、育児に専念するため約5年間を専業主婦として過ごす。その後、第二子の幼稚園入園を機に中小企業診断士として独立。現在は創業支援、医療経営支援を中心に、講師、執筆と幅広く活動中。

【監修】 原 正紀 株式会社クオリティ・オブ・ライフ代表取締役、高知大学客員教授、成城大学非常勤講師。早稲田大学法学部卒業後、大手メーカー、株式会社リクルートを経て、独立。産学公債に対し、採用・育成・人事制度構築など、人材関係の幅広い提案を行う。著書に『採用水戸期』(日本経済新聞出版社)、『優れた企業は日本流』(扶桑社)、『インタビューの教科書』(同友館)など多数。

【写真】 安岡 嘉

HARA'S BEFORE

日本では「ユニコーン」といわれる、世界に通用する尖った強みを持つ企業の登場が期待されている。経産省もその育成に注力している。リバネス社という研究者

集団は多くのシーズを有し、それを他の企業と連携してビジネス化しているという。自らも研究者である丸CEOの経営者像と企業像に迫った。



Umano! | Yukihiko Maru

「理科離れ」を食い止めるために出前実験教室を行っているという株式会社リバネス。この会社のことを知った時、「次から次へといろいろな事業を手がけているようだが、何やら謎に満ちた企業」という印象を受けた。教育・研究にとどまらず、創業支援、人材開発や出版事業まで手がける。研究とビジネスを結びつけ、ここまでの事業多角化を進めてきた創業者の丸氏とは、一体どんな人物なのか。それを紐解くことで、経営者や支援者へのヒントが得られるのではないかと、話を伺ってきた。(荒井)

アクティブな個人の“場”を作る

荒井：リバネスとは、どんな会社なのですか。
丸：2002年、僕が大学院修士課程2年生の時

に、理工系の大学生・大学院生の仲間たち15人を集めて始めました。「大学で研究されている最先端の科学を、小中高の教育現場に届ける」というコンセプトで始めた「最先端科学の出前実験教室」が最初の事業です。その後も「最先端のサイエンスとテクノロジーを、世間にわかりやすく伝えること」をコア・コンピタンスに、サイエンスに関連した新しいビジネスを次々と仕掛けています。現在も多くの大企業等とチームを組んで、200以上のプロジェクトが動いています。

たとえば、最先端の科学のエッセンスを子どもたちに教えれば教育事業になります。あるいは、こうした情報を企業の研究所に知らせれば、新しい研究の種になる。経営者に伝えれば、経営の指針を作るための情報になる

続きは雑誌で